# 魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 北川 正史 所属:山口県立宇部総合支援学校中学部 記録日:2020年2月11日

キーワード: こだわりの軽減による生活の安定、見通し、SNS によるコミュニケーション、文字学習

#### 【対象児の情報】

·学年

特別支援学校 中学部 | 年(男)

·障害名

知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

「○○が終わったら□□」と行動を並列で示すことにより見通しを持って落ちついて生活できるようになったが、次第に「□□」にこだわり行動をあてはめて要求するようになり、それが実現しないことが要因となって行動問題へとつながる場面が増えてきた。

施設へ入所しているためひと月に | 度程度しか母親と会うことができず、母親と再会すると実家に帰りたい衝動に駆られて通常の活動が困難になる。

#### 【活動目的】

- ・当初のねらい
- (1)「○○がおわったら□□」を適正化する。

あてはめる活動内容を具体的に提示し、「□□」に当てはめる内容の適正化を図り、生活の安定を目指す。

(2) 母親とスムーズに交流、面会ができる。

「○○がおわったら□□」の適正化による生活の安定とともに、SNSを通して日々母親と交流し、母親という刺激に慣れることによりねらいの達成を目指す。一番の目標は、入学以来一度も出来ていない授業参観である。

(3) 生活の中で文字情報を活用できる。

文字に対しての興味・関心が強いように見られたので、文字情報を(I)や(2)の中や生活に生かすことができることを目指す。

・実施期間

2019年5月~2020年2月

·実施者

北川 正史

・実施者と対象児の関係

学級担任

### 【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況
- (1)行動関係について

魔法のダイヤリーの取り組みにより「○○がおわったら□□」と行動を並列で示すことでスムーズに活動できるようになり、これが一番の支援方法となっていた。しかし、年度当初より自ら□□の部分に要求(実現不可能なものがほとんど)を当てはめての発言が増えてきて、それが実現されないことが引き金となって、行動問題へとつながる場面が多く見られるようになってきた。

# *例)<u>国語</u>がおわったら<u>お家に帰る</u>*

» この文型にすれば全てが叶うと誤学習 \*その結果

> >>>要求が叶わないと 行動問題へと発展



#### (2) 母親関係について

母親に関する刺激に過敏に反応し、「お母さん」という言葉を聞いただけで「おうちに帰る」な どの連呼が始まり行動問題へとつながる場面が多い。(人や物を叩いてしまったり、服を脱いでし まったりする。) 実際に、母親の姿を見つけるとさらに実家に帰りたい気持ちでいっぱいになり、行 動問題が起こっている。本校に転学以来、母親の前で通常の活動ができたことはなく、中学部の 入学式も参加できなかった。



### (3)文字関係について

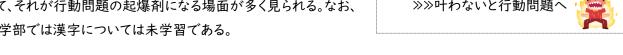
ひらがなはすべて読むことができる。逐次読みの傾向は強い が、拗音、促音などを分離して読むことはない。文字情報に対して の興味・関心も高く、学校生活の中で自分から文字を読んでいる 場面も見られる。しかし、先頭の一文字あるいは途中の一文字を、 こだわり行動に関係する単語に変化させ、その連呼がはじまる。そ して、それが行動問題の起爆剤になる場面が多く見られる。なお、 小学部では漢字については未学習である。

# *例)* せいたん…せんぷうき

あかおに…おうちにかえる

≫掲示物等の文字情報から連想 \*その結果

>>>叶わないと行動問題/



### ・活動の具体的内容

(1)「○○がおわったら□□」の適正化のために(段階的提示教材)

「○○がおわったら□□」を適正化していくために、本人の好みの活動を具体的に提示することにし た。提示方法については、本人の好みの度合いによって段階的に提示するようにし、2つ「〇」になると 次の段階の活動が提示されるようにした。また、枠内には、文字、画像ともに入力・表示できるようにし た。





操作については、文字入力については括弧をタップすることによりキー入力ができる。また、イラストはスライドすること により選択することができる。

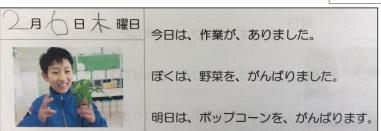
#### (2) 母親と適切な交流ができるために

母親とのスムーズな交流に向けて、毎日 Bytalk で写真日記とスタンプを送信する交流を通して母 親との繋がりを意識できるようにし、母親という刺激に慣れることができるような取り組みを行った。





[画像 | 送信の一例]



[画像2 写真日記の一例]

#### (3) 文字情報を活用できるために

興味・関心が強く、学習意欲の高い文字情報を、有効な情報手段と認識し活用できるために次のような学習を行った。



①ひらがなと漢字、音声の一致から教科名を学習できる教材を使用し学習を行った。



②写真日記の教材を使用し、教科名などの学習した成果を生かすことができるようにした。なお、本教材のねらいは、活動の様子の写真と文字情報(漢字)の一致を図り、文字情報の活用に繋げていこうと考えたものも含まれる。 \*本教材については、EXCELのVBAを用いて作成した。



### ・対象児の事後の変化

本児の生活の変化を「○○が おわったら□□」の「□□」の発 言内容と行動問題の発生につい て記録した。

☆同様の調査を10月7日から 2週間行ったが、6月10日以後 の状況と全く変わらない状況で あった。なお、□□の部分に無理 な要求を当てはめることも見られ ていない。



「□□」の部分について(5月13日~6月21日) 5月13日 14日 せんぶ 15日 はぎ かき このみえん 20日 せんぷうき グミ 24日 せんぶうき このみえん グミ お母さん 28⊟ ByTalk 30⊟ せんぷうき くるま お母さん 31日 6月3日 48 5日 おかし 7日 せんぷうき このみえん おうち 11日 エビカニ エビカニ エビカニクス 12E 段階表示の教材 14E エビカニ イヤホン しろめ しろめちゃん 18日 エピカニクス イヤホン エビカニ しろめちゃん イヤホン スマホ下さい 音楽を下さい イヤホン 音楽 エビカニ

〔表 | 発言内容と行動について〕

られ行動問題も減少していった。さらに段階的提示教材を導入後は、顕著に減少した。

ByTalkで母親との交流を始めると、発言内容に変化が見

- ❖変化に関してその他
- i.10 月頃より文化祭練習で様々な場所で活動する機会が増えてきた。その頃より授業後の提示で遊びの選択前に「*国語*が終わったら体育館」のような双方が授業に関する事柄(場所)の表現(発言)が見られるようになってきた。
- ii.給食で苦手な酢の物がでたときエピソード



大嫌いなキュウリの酢の物が出てきたときに自らにかけた掛け声である。



## 「野菜が終わったら牛乳」(丸飲み!)

iii.上記のような様々な表現が見られ、それらをアプリに入力しようとする場面が多くみられるので、予測変換の学習教材を作成し実践した。その結果、I5の単語を入力することができるようになり、教科名でなく内容で入力する場面も見られるようになってきた。



学習教材について					
			0		
	おかあさん	お母さん			
	きょうしつ	教室			
Ser.	たいいくかん	体育館			
	やさい	野菜			
	がっこう	学校			
- 200 9	3: 7u 89	4F / FF 2 (C)	9		

画像を見ながら、ひらがなと漢字を入力する中で、予測変換学習の利便性を学習できるようにした。



教科名でなく学習した内容で入力する場面も見られるようになってきた。例)野菜(作業)が終わったらおばけ

### 【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づきとエビデンスト

<母親との関係について>

ByTalk For School による日々の送信によって「母親と繋がっている」「母親と交流している」 意識を持つことができたと次のことから判断した。

#### 頻繁にお風呂のスタンプを使用





母親にスタンプの心あたりを聞くと、自宅ではなかなかお 風呂に入らないとのことであった。これは、帰省しても入ら ないというメッセージであると推測できる。

### 指を持って入力を要求



「お母さん」と言葉を発しながらキーボード上に指を握って、入力を要求してくる場面が出てきた。伝えたい書きたい意欲の表出とも捉えることができる。

これらは、お母さんに「伝わる」「伝わっている」という自覚がないと起こらない事象だと考えられる。これらによって、母親という刺激に慣れることにも繋がっていると思われる。

#### ・主観的気づきとエビデンス2

写真日記の学習状況から文字情報の理解も確実に進んでいると判断した。



「画像3 写真日記の入力画面〕

前述の写真日記の手順2で示した教科名については、日 課教材で学習した教科名についてはすべて漢字で表記にし た。(正解:黄塗り、赤字)

表2は、次の3点の結果を示したものである。

- ①『自分が活動している写真を選択できたか』
- ②『教科名を正しく答えることができたか』
- ③『内容を正しく答えることができたか』

\*同様の調査を10月7日から2週間実施した。①②の

月日	①自分を選択	②教科名(漢字)	③具体的な内容
6月3日	0	給食	チーズ
4⊟	0	給食	おにく
5日	×	生単	せんぷうき
6⊟	×	国語	かんじ
7日	×	音楽	かたづけ
10日	×	体育	マイク
11⊟	0	やすみ	ボール
12日	×	生単	うどん
13日	0	やすみ	しろめちゃん
14日	×	体育	ボール
18日	×	国語	かんじ
19日	×	えいご	あいさつ
20日	0	国語	えんぴつ
21日	0	体育	ころころ
24⊟	0	体育	へいきんだい
25⊟	×	しゅうかい	たなばた
26⊟	0	生単	おはなし
27日	0	国語	かんじ
28⊟	0	生単	わたあめ

〔表2 写真と内容等の一致について〕

正答率は通常の授業ならほぼ 100%であった。内容については、経験のある活動なら正答できる結果であった。

これらから文字情報と活動の記憶の一致が見られたことから、文字情報のみでも活動内容の提示が可能であると考えらえる。これらより、iPad のない環境下で、文章での提示【(例)国語がおわったらテレビ】も有効であると思われる。

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

# ◇うべそうまつり(本校文化祭:11/9 開催)での大成功エピソード◇

~3つの取り組み『○○がおわったら□□』『母親との交流』『文字学習』の集大成~

うべそうまつりの自由時間に母親と対面し、放課後帰省の約束をして、また自由 行動に戻るチャレンジした。それに対して段階的提示教材の最後に2つ欄を設定し、

# 「体育館が終わったら、スマホしながらお母さん」

と説明をした。これにより、初めて校内でお母さんと対面後、離れて活動をすることができた。これは、スマホ遊びという魅力的なコンテンツの力もあるが、3つの活動が融合して生まれた成果である言っても過言でない。

このように学校生活では、とても安定した学校生活を送ることができていることから、本児に対してこの取り組みは有意性があったと考えられる。



[画像4 提示した画像]

#### 【さいごに】

現在、口頭での「○○がおわったら□□」で学校生活はとても安定している。母親との関係についても、12月頃から帰省時に落ち着いて生活できている場面も増えてきているとの報告を受けた。しかし、特定の相手からしか「○○がおわったら□□」を受け取ることができず、施設内では行動問題に発展する場面もあるとの報告も受けている。これからの課題としては、いかなる場所や相手に対しても落ち着いて生活を送ることができるようになることである。

\*3月には初の授業参観を予定している。